

植物に対するオゾンの影響（概説）

目次

1

2

3

4

5 1. はじめに 2

6 2. 気孔を介した葉のオゾン吸収 2

7 3. オゾンによる葉面可視障害の発現 3

8 4. 葉の生理機能に対するオゾンの影響 4

9 4.1. 活性酸素種と活性酸素消去系 4

10 4.2. 光合成 6

11 4.3. 気孔に対するオゾンの影響 8

12 4.4. 呼吸 9

13 5. その他のオゾンの植物影響 10

14 5.1. 葉のターンオーバー 10

15 5.2. 炭素分配 11

16 5.3. フェノロジー 11

17 6. まとめ 12

18 7. 参考文献 12

19

20

1 1. はじめに

2 光化学オキシダントの主成分であるオゾン（ O_3 ）は、植物に対して毒性が高いガス状大
3 気汚染物質である。一般に、オゾンの植物影響には急性影響と慢性影響がある。急性影響
4 とは比較的高濃度のオゾンが短時間（数時間～数日）にわたって曝露された植物に発現す
5 る影響であり、葉に可視障害が発現し、光合成を行なうために光エネルギーを吸収する色
6 素であるクロロフィルの濃度低下や光合成阻害などが引き起こされる。また、慢性影響と
7 は比較的低濃度のオゾンが長期間（数週間～数年）にわたって曝露された植物に発現する
8 影響であり、光合成阻害や成長低下などが引き起こされる。本資料では、植物（農作物と
9 樹木）に対するオゾンの影響を概説する（図 1）。

10



11

12

図 1 植物に対するオゾンの影響.

13

大気中のオゾンは気孔を介して葉内に吸収され、様々な生理機能に影響を
14 及ぼし、成長や収量を低下させる。なお、気孔は主に葉の背軸面（裏面）
15 に存在する。

16

17

18 2. 気孔を介した葉のオゾン吸収

19 気孔とは、生物学的あるいは非生物的要因に反応して開口調節される葉の小孔であり、光
20 合成の際の二酸化炭素（ CO_2 ）や蒸散の際の水蒸気（ H_2O ）の通り道であると共に、大気か
21 ら葉内へのオゾンの通り道でもある（図 2）。大気中のオゾンは、農作物や樹木の気孔から
22 葉内へ侵入し、光合成などの生理機能に害作用を及ぼす（Reich, 1987）。気孔を介した葉
23 のオゾンの吸収は、農作物や樹木におけるオゾンの影響の程度と密接に関係している
24 （Mills *et al.*, 2010）。気孔コンダクタンス（気孔抵抗の逆数）は気孔における気体の通
25 りやすさの指標であり、植物の葉における CO_2 吸収速度（光合成速度）、水分損失速度（蒸
26 散速度）、そしてオゾン吸収速度を決定する主要な因子である。

27

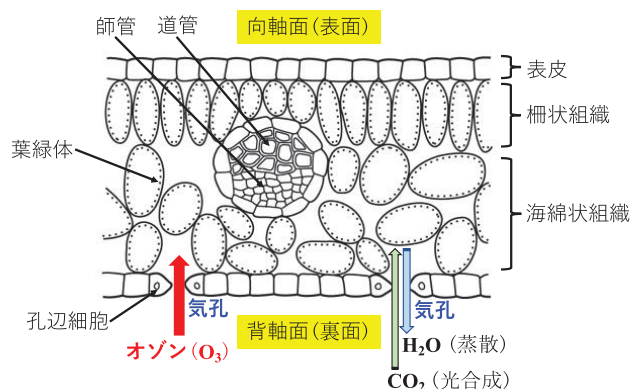


図 2 大気から気孔を介した葉内へのオゾンの吸収経路。

3. オゾンによる葉面可視障害の発現

1 農作物や樹木が比較的高濃度のオゾンに曝露されると、葉に可視障害が発現することが
 2 ある（図 3）。日本の都市域における調査によると、オゾン感受性の高い農作物では、日最
 3 高オゾン濃度が 60～90 ppb を記録したときに、しばしば葉に可視障害が観察されている。
 4 このオゾンによる可視障害は、成熟葉や比較的古い葉に生じやすく、主に葉の向軸面（表
 5 面）に発現する。また、オゾンによる可視障害の症状は、農作物の種類によって異なる。
 6 例えば、ハツカダイコン、ホウレンソウ、タバコ、アサガオなどの草本植物では、葉脈間
 7 に微小な白色斑点や漂白斑を生ずる。この症状は、オゾンによって主に葉の柵状組織の細
 8 胞が攻撃を受け、細胞壁が変化し、細胞が崩壊し、その崩壊した部分に空気が充満したた
 9 めに生じると考えられる（野内, 2001）。一方、イネ科やマメ科の植物の葉に発現するオゾ
 10 ンによる可視障害は、褐色または赤褐色の斑点である。これは、柵状組織の壊死した細胞
 11 に赤褐色などの色素が蓄積し、細胞内が着色して生じると考えられている（野内, 2001）。
 12 可視障害の発現に対するオゾン感受性は、作物種によって異なるだけでなく、品種間でも
 13 異なっている。可視障害の程度に基づいた農作物のオゾン感受性の種間差異は、寺門と久
 14 野(1981)によって 22 科 45 種を対象としたオゾン曝露試験によってまとめられている。
 15 一方、キャベツやタマネギなどは、オゾンによる葉の可視障害が発現しにくい農作物であ
 16 る。数品種のイネの可視障害に関する調査では、ニッポンバレはややオゾン感受性が高く
 17 可視害が発現しやすいが、コシヒカリは中庸で、トヨニシキは低感受性であることが報告
 18 されている（中村, 1979）。このような葉の可視障害の程度に基づいた農作物のオゾン感受
 19 性の品種間差異に関する報告は、コマツナ (Izuta *et al.*, 1999)、ホウレンソウ (印南と三
 20 輪, 2014)、バレイショとラッカセイ (松丸と高崎, 1989)、イネ (Sawada and Kohno, 2009)
 21 などにおいてなされている。農作物や園芸作物の葉の可視障害の程度に基づいたオゾン感
 22 受性の違いは、野内ら(1988)なども参考にされたい。ただし、農作物の葉の可視障害の発
 23 現程度に基づいたオゾン感受性と成長や純光合成速度の低下程度に基づいたオゾン感受性
 24 は異なり、例えば、コマツナの品種であるミスギの個体乾重量や純光合成速度におけるオ

1 ゾン感受性は他の品種に比べて高いが、葉の可視障害発現に基づいたオゾン感受性は比較
2 的低い (Izuta *et al.*, 1999)。

3



4

5 図3 東京都府中市の野外条件下で育成したハツカダイコン (左の写真、
6 2007年8月) とチンゲンサイ (右の写真、2013年7月) の葉に発現し
7 たオゾンによる可視障害 (撮影 伊豆田 猛) 。

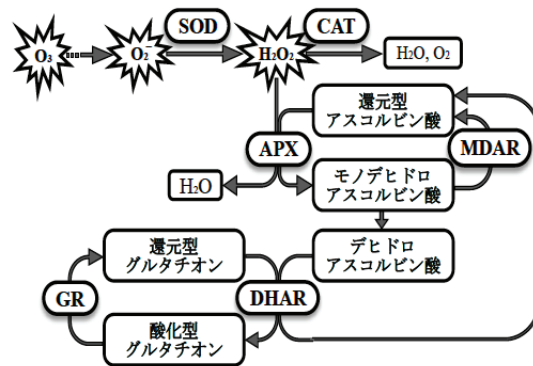
8

9 4. 葉の生理機能に対するオゾンの影響

10 4.1. 活性酸素種と活性酸素消去系

11 大気から気孔を介して葉内に吸収されたオゾンは、海綿状組織などの細胞外空間 (アポ
12 プラスト、細胞壁と細胞間隙の総体) の水溶液 (アポプラスト溶液) に溶ける。アポプラ
13 スト溶液に溶け込んだオゾンは、その分解によって活性酸素種 (ROS: reactive oxygen
14 species) を生成する (Heath, 1980)。活性酸素種とは、反応性の高い酸素種の総称で、ス
15 ーパーオキシド (superoxide, O_2^-)、過酸化水素 (hydrogen peroxide, H_2O_2)、ヒドロキシ
16 ラジカル (hydroxyl radical, $\cdot OH$) などがあり、生体内で酸化剤として作用し、様々な影
17 響を及ぼす。アポプラストに入ったオゾンの一部は、アポプラスト溶液内の主要な抗酸化
18 物質であるアスコルビン酸によって解毒される (Chameides, 1989)。アスコルビン酸によ
19 る直接の消去反応を介して解毒されるオゾンの量は、アポプラストに侵入したごく一部に
20 過ぎず、大部分のオゾンはアポプラストを通り抜け、細胞膜や細胞内組成物に障害を及ぼ
21 すことが指摘されている (Luwe *et al.*, 1993; Turcsányi *et al.*, 2000; D'Haese *et al.*, 2005;
22 野内ら, 2019)。そのため、原形質膜、細胞質、細胞小器官である葉緑体やミトコンドリア
23 などにオゾンは侵入し、様々な過程で活性酸素種が生成される (Heath, 1987; Scandalios,
24 1994; 浅田, 1999)。通常、このような活性酸素種は、活性酸素消去系の抗酸化物質や抗酸
25 化酵素によって消去される (図4)。主な活性酸素種であるスーパーオキシドはスーパーオ
26 キシドジスムターゼ (SOD) によって、過酸化水素はカタラーゼ (CAT) やペルオキシダ
27 ーゼのような酵素によって、ある程度消去されるが、オゾンによる活性酸素種の蓄積はク
28 ロロフィルなどの色素の分解、タンパク質の分解、膜脂質の過酸化による分解、DNAの開
29 裂などを引き起こす (Sakaki *et al.*, 1983; Thompson *et al.*, 1987; Heath and Taylor,

1 1997)。高濃度オゾンに曝されたホウレンソウの葉において過酸化水素代謝系の酵素であ
 2 るアスコルビン酸ペルオキシターゼ (APX) やグルタチオンレダクターゼ (GR) などの活
 3 性が増加する (Tanaka *et al.*, 1985; 1988) あるいはイネ葉においてアスコルビン酸やグ
 4 ルタチオンなどの抗酸化物質の濃度が増加する (Nouchi, 1993) など、農作物の葉の抗酸
 5 化物質の含量やそれに関連した酵素活性がオゾンによって増加することが報告されている。
 6 これらは、オゾンに対する防御作用のひとつであると考えられる。Inada *et al.*, (2008)は、
 7 オゾンの AOT40 の増加に伴って、イネ (品種：コシヒカリとキヌヒカリ) の葉の APX、
 8 GR またはモノデヒドロアスコルビン酸レダクターゼ (MDAR) の活性は増加したが、これ
 9 らの酵素の活性増加はクロロフィル濃度に対するオゾンの悪影響を防ぐには不十分であつ
 10 たことを報告している。Inada *et al.*, (2012)は、オゾン曝露によって、コムギ (品種、シロ
 11 ガネコムギ) の止め葉 (イネ科作物の茎の最上位に発生する葉) のリブローズ-1,5-ビスリ
 12 ン酸カルボキシラーゼ/オキシゲナーゼ (Rubisco, カルビン-ベンソン回路で二酸化炭素を
 13 固定する反応を触媒する酵素) の活性と濃度、CAT と MDAR の活性及び還元型アスコルビ
 14 ン酸と総グルタチオンの濃度が低下したことを報告している。また、コムギの純光合成速
 15 度におけるオゾン感受性の品種間差異は、主に CAT や MDAR などの活性酸素消去系酵素
 16 の活性によって決定される活性酸素の消去能力に依存していることを報告している。
 17



18
 19 図 4 植物の葉の活性酸素消去系. 活性酸素消去系においては、抗酸化
 20 酵素 (SOD, CAT, APX, MDAR, DHAR) と抗酸化物質 (還元型アスコル
 21 ビン酸と還元型グルタチオン) によって、活性酸素種 (スーパーオキシド
 22 と過酸化水素) を水 (H₂O) や酸素 (O₂) にして無毒化する。

23 O₂⁻, スーパーオキシド

24 H₂O₂, 過酸化酸素

25 SOD, スーパーオキシドジスムターゼ

26 CAT, カタラーゼ

27 APX, アスコルビン酸ペルオキシダーゼ

28 MDAR, モノデヒドロアスコルビン酸レダクターゼ

4.2. 光合成

オゾンには、葉の葉緑体における光合成機能を阻害する。オゾンに曝露された植物で観察される初期反応として、純光合成速度の低下がある。日本で栽培されている農作物の純光合成速度に対するオゾンの影響に関する研究は限られているが、トウモロコシ、インゲンマメ、イネ、ハツカダイコン、コマツナ、コムギなどでオゾンによる純光合成速度の低下が報告されている(河内, 1980; 伊豆田ら, 1988; Izuta *et al.*, 1991, 1994, 1999; Yamaguchi *et al.*, 2008; Inada *et al.*, 2012; Yamaguchi *et al.*, 2015)。また、日本の森林を構成している樹木の純光合成速度に対するオゾンの影響は、ブナ (Izuta *et al.*, 1996; Yonekura *et al.*, 2001a, 2001b; Watanabe *et al.*, 2010, 2013; Yamaguchi *et al.*, 2007 a, b; Kinose *et al.*, 2017a, 2017b, 2020a, 2020b)、ミズナラ (Watanabe *et al.*, 2015)、カラマツ (Watanabe *et al.*, 2006)、アカマツ (Nakaji and Izuta, 2001; Watanabe *et al.*, 2006)、スギ (三輪ら, 1993; 松村ら, 1996; 1998; Watanabe *et al.*, 2006) などで報告されているが、純光合成速度におけるオゾン感受性には樹種間差異が存在する(松村ら, 1996; 1998; Watanabe *et al.*, 2006; Yamaguchi *et al.*, 2019; Kinose *et al.*, 2020c)。Watanabe *et al.*, (2006)は、オゾン曝露によってカラマツ苗とアカマツ苗の純光合成速度は低下したが、スギ苗のそれは有意な低下が認められなかったことを報告している。

オゾンが光合成速度を変化させる要因のひとつとして、気孔開度の変化がある。オゾンの気孔開度への影響は、主に葉緑体の光合成活性によって調節されている葉内の二酸化炭素濃度の変化に依存していると考えられている。古川(1984)は、オゾンによる純光合成速度の低下は気孔閉鎖と葉緑体における光合成系の損傷によるものであると報告している。したがって、オゾンによって葉緑体の光合成活性が低下すると、葉内の二酸化炭素濃度が高くなり、気孔閉鎖が引き起こされると考えられる。また、光合成系のオゾンによる損傷としては、葉におけるクロロフィル濃度や Rubisco の含量や活性などの低下が多く植物で認められている (Dann and Pell, 1989; Nie *et al.*, 1993; Pell *et al.*, 1994)。

光合成速度は、光エネルギーを利用して Rubisco が固定できる CO₂ の量 (CO₂ 要求量) と大気から葉緑体のストロマ (主要な可溶性区画で炭素同化の場合) への CO₂ 供給量の両方によって決定される。大気から葉緑体のストロマへの CO₂ 供給量は、気相と液相の拡散に制御されている。気孔コンダクタンスは、大気から気孔腔までの CO₂ 拡散を制御する主要なパラメータのひとつである。また、気孔腔からストロマまでの気相及び液相における CO₂ 拡散も無視できない。これまでは葉肉コンダクタンス (気孔付近の葉内細胞間隙から葉緑体までの CO₂ の拡散抵抗の逆数) の測定は困難であったが、近年の測定技術の進歩によって葉肉コンダクタンスは気孔コンダクタンスと同程度の値であることが判明し、現在では CO₂ 供給量を決定づける重要な要因であると認識されている。現時点では葉肉コンダクタ

1 ンスに対するオゾンの影響に関する知見は世界的にも極めて限られているが、Watanabe
2 *et al.*, (2018)はオゾンの長期曝露によってブナ苗の葉の葉肉コンダクタンスが低下するこ
3 とを明らかにした。

4 純光合成速度の葉内 CO₂ 濃度 (C_i) への応答曲線 (A/C_i 曲線) の解析は、光合成におけ
5 る CO₂ の供給量と要求量を定量化するための最も強力な手法のひとつである (Farquhar
6 *et al.*, 1980)。そこから得られる最大カルボキシル化速度 (V_{cmax}) 及び最大電子伝達速度
7 (J_{max}) は CO₂ 要求量の代表的なパラメータであり、光合成における気孔による制限
8 (stomatal limitation) は大気から葉内への CO₂ 供給量の代表的なパラメータである。ト
9 リオースリン酸の利用 (TPU) による制限も光合成速度を調節する因子として考えられて
10 いるが (Sharkey, 1985)、日本の森林樹木の TPU に対するオゾンの影響は報告されてい
11 ない。

12 植生の炭素循環シミュレーションの多くは、光合成速度の計算に Farquhar *et al.*, (1980)
13 の生化学モデルを使用しているが、これまでのところ、このモデルのパラメータに対する
14 オゾンの影響を調査した研究は限られている。Watanabe *et al.*, (2013)は、開放系オゾン
15 曝露システムを用いてブナの幼木の葉の A/C_i 曲線を解析した。日中に 60 ppb のオゾンを
16 曝露することで、光飽和の純光合成速度 (A_{sat})、最大カルボキシル化速度 (V_{cmax}) 及び
17 最大電子伝達速度 (J_{max}) が有意に低下したが、気孔コンダクタンスと光合成における気
18 孔制限に有意な影響は認められなかった。これらの結果は、オゾンによるブナの光合成低
19 下は、気孔閉鎖ではなく、生化学的制限によるものであることを示している。さらに、オ
20 ゾンによって C_i の大気 CO₂ 濃度 (C_a) に対する比 (C_i/C_a) は上昇しており、気孔が十分
21 に閉鎖されない気孔応答の鈍化が生じた。オゾンによる V_{cmax} またはカルボキシル化効率
22 (A/C_i 曲線の初期勾配であり、 V_{cmax} と相関がある) の低下は、多くの日本の森林樹木にお
23 いても報告されている (ブナ, Izuta *et al.*, 1996; Yonekura *et al.*, 2001b; Yamaguchi *et*
24 *al.*, 2007b; Kinose *et al.*, 2017b; シラカンバ, 松村ら, 1998; ウダイカンバ, Watanabe *et*
25 *al.*, 2014; ケヤキ, 松村ら, 1998; アカマツ, Nakaji and Izuta, 2001; スダジイ, Watanabe
26 *et al.*, 2008)。一方、最新の知見により、オゾンによって見かけ上はブナ苗の V_{cmax} が低下
27 しているが、実はそうではなく、葉肉コンダクタンスが低下している可能性が指摘されて
28 おり (Watanabe *et al.*, 2018)、結果の解釈には注意が必要である。

29 窒素は、生化学的な光合成能力に強く関与する栄養素である (Lambers *et al.*, 2008)。
30 葉内の窒素の大部分は光合成に関わるタンパク質に含まれており (Evans, 1989; Evans
31 and Seemann, 1989)、一般に光合成速度と葉の窒素含有量との間には正の相関がある
32 (Kitaoka and Koike, 2004)。純光合成速度 (A) は、光合成の窒素利用効率 (葉の窒素
33 濃度あたりの純光合成速度, PNUE) と葉の窒素含有量の積で表現される。

34
$$A \text{ (}\mu\text{mol m}^{-2} \text{ s}^{-1}\text{)} = \text{PNUE (}\mu\text{mol mol}^{-1} \text{ s}^{-1}\text{)} \times \text{葉の窒素含有量 (mol m}^{-2}\text{)}$$

1 一般に、秋期を除いて、オゾン葉の窒素濃度にほとんど影響を及ぼさない。秋期には、
2 オゾンに曝露された葉では、落葉前の葉からの窒素回収（樹体内への窒素の引き戻し）が
3 阻害され、葉の窒素濃度が高いことが報告されている（Uddling *et al.*, 2005; Yamaguchi
4 *et al.*, 2007a）。一方、いくつかの研究で、日本の樹木の PNUE がオゾンによって低下す
5 ることが報告されている（Watanabe *et al.*, 2007, 2015, 2020; Yamaguchi *et al.*, 2007a;
6 Hoshika *et al.*, 2013b; Sugai *et al.*, 2019）。その原因として、オゾンによって光合成機構
7 への窒素配分量が減少することがブナの幼木で確認されている（Watanabe *et al.*, 2013）。

8 樹木は限られた養分資源を効率良く使いながら成長しているが、オゾンが PNUE を低下
9 させるということは、成長における窒素利用効率（NUE, 窒素吸収量あたりの成長量）も
10 低下させる可能性がある。特に、窒素が不足しがちな森林土壌においては、NUE は植物の
11 成長や繁殖に関わる重要なパラメータである。しかしながら、NUE に対するオゾンの影響
12 を調べた研究は世界的にも 1 つしかなく、それは日本のブナを対象とした研究のみである
13 （Watanabe *et al.*, 2020）。この研究では、浄化空気区と野外の 1.0 倍または 1.5 倍に制
14 御した 3 段階のガス処理区で、2 成長期間にわたってブナ苗を育成した。その結果、オゾ
15 ンによる PNUE の低下は認められたものの、それは NUE を低下させるほどの顕著な影響
16 ではなかった。

17 Yonekura *et al.*, (2001b)は、オゾン曝露条件下で育成したブナ苗の葉のガス交換特性を
18 成長期に定期的に測定した。6月中旬からオゾンによってカルボキシル化効率が低下し、
19 A_{sat} 及び光・CO₂飽和下の純光合成速度（ J_{max} と強い相関あり）が7月中旬に低下した。こ
20 れらの結果は、まずオゾンは、カルボキシル化能力の低下（Rubiscoの濃度や比活性の低下）
21 を引き起こし、次にフィードバック調節の結果としてカルボキシル化能力に見合うように
22 他の光合成機能の低下を誘発することを示唆している。Yamaguchi *et al.*, (2007a, 2010)
23 の研究では、オゾンによってブナ苗の葉の窒素濃度に占める可溶性タンパク質濃度（主に
24 Rubisco）の割合が低下した。さらに、オゾンによるブナ苗の葉のRubisco濃度の低下は、
25 酸性アミノ酸含有量の増加を伴っており、Rubiscoの分解を示唆した。Brendley and Pell
26 (1998)は、交雑ポプラにおいて、オゾンによってタンパク質分解が促進されることを発見
27 した。オゾンによるRubisco濃度の低下は、他の日本の森林樹木でも観察されている（アカ
28 マツ, Nakaji and Izuta, 2001; コナラ, Watanabe *et al.*, 2007）。

29

30 4.3. 気孔に対するオゾンの影響

31 一般に、葉の気孔コンダクタンスはオゾンによって低下する（Wittig *et al.*, 2007）。日
32 本の森林を構成している樹木においても、オゾンによる気孔コンダクタンスの低下が報告
33 されている（Hoshika *et al.*, 2012b, 2013b）。Kinose *et al.*, (2020a)は、ブナ苗を 3 段階
34 のガス処理区（活性炭フィルターによる浄化空気区と大気濃度の 1.0 または 1.5 倍に比例

1 追従制御したオゾン区)で育成し、1.0倍区及び1.5倍区においてオゾンによる夏季の気孔
2 閉鎖が年間のオゾン吸収量をそれぞれ約6%及び10%制限していることを報告した。

3 オゾンが気孔制御の効率を悪化させ、特に気孔閉鎖の能力を低下させる、いわゆる気孔
4 応答の鈍化(stomatal sluggishness)を引き起こすことが示唆されている(Paoletti and
5 Grulke, 2005)。Yamaguchi *et al.*, (2007a)は、秋においてブナ苗(*Fagus crenata*)の光
6 飽和条件下の気孔コンダクタンスがオゾンによって上昇することを発見した。Watanabe
7 *et al.*, (2014)は、ウダイカンバ苗においてオゾン(日中60 ppb曝露)に対する気孔コンダ
8 クタンスの応答が一貫していない原因として、気孔閉鎖と気孔応答の鈍化の両方を指摘し
9 た。Hoshika *et al.*, (2015)は、ブナの葉齢の上昇と共に、オゾンによる気孔閉鎖の程度が
10 小さくなることを報告した。また、10月においては、ブナの夜間の気孔コンダクタンスが
11 オゾンによって上昇する可能性が報告されている(Hoshika *et al.*, 2013a)。

12 オゾンによる気孔制御の阻害によって、環境変化に対する気孔の開閉が遅くなる可能性
13 がある。Hoshika *et al.*, (2012a)は、ブナ苗において、光の変化(光合成有効放射束密度が
14 $100 \mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$ と $1,500 \mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$ の光を交互に照射)に対する気孔の開閉速度がオゾ
15 ンによって著しく遅くなることを報告した。気孔の開閉速度の鈍化のメカニズムは完全に
16 は明らかにされていないが、それに関連する事象がいくつか報告されている。Omasa
17 (1990)は、孔辺細胞の周囲の細胞にオゾンが障害を及ぼして細胞から水を流出させ、結果
18 的に膨圧バランスが崩れて一時的に気孔が開くが、その後、障害回避のために気孔の閉口
19 作用も働くという相反する現象を報告した。Mills *et al.*, (2009)は、アブシシン酸(ABA)
20 に対する気孔閉鎖の感受性をオゾンが低下させることを発見した。エチレンは気孔閉鎖に
21 おけるABAの作用を阻害することが知られているが、オゾンによって誘発されたエチレ
22 ンの生成が気孔応答の鈍化に関与している可能性も報告された(Tanaka *et al.*, 2005;
23 Wilkinson and Davies, 2010)。さらに、オゾンは気孔閉鎖に関わる CO_2 シグナル伝達に
24 関する遺伝子発現を阻害することが実証された(Dumont *et al.*, 2014)。

25 以上のように、オゾンは、気孔閉鎖と気孔応答の鈍化を引き起こすが、オゾンによる気
26 孔応答の鈍化には気孔の開鎖が十分なレベルに達しないタイプと気孔の開閉速度が遅いタ
27 イプの2種類がある。このように、気孔開閉に対するオゾンの影響は極めて複雑であるが、
28 気孔を介した葉のオゾン吸収量の推定においてはこれらの影響を十分に考慮する必要があ
29 る。

30

31 4.4. 呼吸

32 日本の森林樹木の葉の暗呼吸速度(R_d)に対するオゾンの影響は実験によって異なる。
33 Izuta *et al.* (1996)は、75及び150 ppbのオゾン曝露(6時間/日×18週間)によって、統
34 計的に有意ではなかったが、ブナ苗の R_d が40%以上低下したことを報告した。Wittig *et*
35 *al.* (2009)によると、 R_d は一般にオゾンによって低下する。しかしながら、それとは対照的

1 に、ブナ及びミズナラの苗木においてはオゾンによる R_d の上昇が観察された例もある
2 (Watanabe *et al.*, 2013)。農作物においても、オゾンによる R_d の促進が報告されている
3 (Black, 1984)。また、 R_d に対するオゾンの有意な影響は、スギ、ヒノキ、ケヤキ (松村
4 ら, 1996) 及びブナ (Yonekura *et al.*, 2001b) の苗木では認められなかった。このような
5 R_d に対するオゾンの影響の違いにおけるメカニズムは明らかにされていないが、オゾンに
6 よる損傷の程度が原因のひとつとして考えられる。すなわち、オゾンによる損傷が深刻な
7 場合、暗呼吸を含むすべての代謝機能が低下する。それに対して、オゾンによる損傷が軽
8 微な場合、オゾンによって誘発される活性酸素種の解毒能力の向上やオゾンによる損傷組
9 織の修復のために R_d が上昇する可能性がある (Landolt *et al.*, 1997; Matyssek and
10 Sandermann, 2003)。

11 現在のところ、葉以外の非同化器官や土壌呼吸 (土壌中の微生物と植物の根の呼吸によ
12 る CO_2 の生成) に対するオゾンの影響を調べた研究は非常に限られている。伊豆田ら (1988)
13 と Izuta *et al.*, (1991) は、ハツカダイコンの非同化器官の暗呼吸速度にオゾンの有意な影
14 響は認められなかったことを報告している。Watanabe *et al.*, (2019) は、2 年間にわたるオ
15 ゾン曝露の結果、ブナ苗の土壌呼吸速度に対するオゾンの有意な影響は認められなかった
16 ことを報告した。その原因として、オゾンによるブナ苗の粗根や細根の乾重量の低下が起
17 こらなかったことが考えられた。一方、オゾンはアカマツ苗の細根乾重量を低下させるこ
18 とが報告されており (Nakaji and Izuta, 2001)、オゾン障害の程度が比較的大きい場合は
19 根や土壌呼吸が影響を受ける可能性が十分にある。

20

21 5. その他のオゾンの植物影響

22 5.1. 葉のターンオーバー

23 植物は、古い葉を落とすと共に新しく葉を生成して、個体全体として効率よく光合成を
24 するが、そうした葉のターンオーバー (新旧の葉が入れ替わりつつ、個体全体でバランス
25 を保つ動的平衡状態) にオゾンは影響を与える。Watanabe *et al.*, (2008) の実験では、2004
26 年 4 月から 2005 年 11 月の 2 成長期間にわたって、オープントップチャンバー内でスダジ
27 イ苗に 4 段階のオゾン処理 (活性炭フィルターによる浄化空気区と大気濃度の 1.0、1.5、
28 2.0 倍に制御したオゾン区) を行った。その結果、オゾンによってスダジイの古い葉の落葉
29 数は有意に増加したが、オゾンの濃度レベルの上昇に伴って新芽の出芽が促進された。こ
30 の現象は、オゾン障害に対する一種の補償反応と考えられている。このようなオゾンによ
31 る新葉生産の促進は、ブナ (Watanabe *et al.*, 2010; Kinose *et al.*, 2017a)、シラカンバ
32 (Hoshika *et al.*, 2013b)、コナラ及びミズナラ (Kitao *et al.*, 2015) においても認めら
33 れている。しかしながら、古い葉が落葉すると炭素が失われ、新葉の生産には炭素コスト
34 が必要なため、オゾン障害に対する補償反応としての有効性は明らかではない。

35

1 5.2. 炭素分配

2 オゾンは、植物の地上部と地下部の炭素分配を変化させる (Nouchi *et al.*, 1991)。オゾ
3 ンによって、多くの樹種の地上部よりも地下部である根の成長が著しく阻害され、地上部/
4 地下部のバイオマス比 (S/R 比) が上昇する (Wittig *et al.*, 2009)。松村ら(1996)は、24
5 週間のオゾン曝露実験で、積算オゾン曝露量の増加に伴って、ケヤキ苗の S/R 比が上昇す
6 ることを示した。このようなオゾンによる S/R 比の増加は、スギ (三輪ら, 1993; 松村ら,
7 1998; 河野と松村, 1999)、ヒノキ (河野と松村, 1999)、サワラ (河野と松村, 1999)、
8 シラカンバ (松村ら, 1998)、ウラジロモミ (松村ら, 1998)、ブナ (Yamaguchi *et al.*,
9 2007a)、コナラ及びミズナラ (Kitao *et al.*, 2015) などの日本の森林樹種で報告されてい
10 る。オゾン曝露による根の成長低下は、葉で生産された同化産物の他の器官への転流抑制
11 によって生じるが、根などの非同化器官より同化器官である葉に同化産物を優先的に分配
12 することによって葉の成長を維持し、個体の成長効率の低下を防いでいると考えられてい
13 る (Okano *et al.*, 1984; Kitao *et al.*, 2015)。さらに、イネなどの農作物では、オゾンに
14 よって成長量が低下する中で、栄養成長期には光合成による同化産物の葉への転流を促進
15 して葉の成長を維持し、生殖成長期では種子の形成と成長が維持されるように種子に同化
16 産物の転流が促進されるといったオゾンに対する適応反応が認められている (Nouchi *et*
17 *al.*, 1995)。

18

19 5.3. フェノロジー

20 オゾンは、植物のフェノロジー (季節の移り変わりに伴う行動や状態の変化) に影響を
21 及ぼす。オゾンによる葉の老化促進は、樹木において一般的なオゾンの影響のひとつであ
22 るが (Pell *et al.*, 1999)、自然に起こる葉の老化とは異なる (Matyssek and Sandermann,
23 2003)。葉の老化促進及び上述した古い葉の落葉は、オゾンに対する補償反応の一種とし
24 て同様のメカニズムで生じる可能性はあるが、それらの違いは明らかにされていない。
25 Yonekura *et al.*, (2004)は、ブナ苗のフェノロジーに対するオゾンの影響を調べた。自然光
26 型人工気象室内で、5~10月の成長期間に、60 ppb のオゾンを 7 時間/日でブナ苗に曝露し
27 た。成長期の終了後に、ブナ苗を人工気象室から取り出し、翌春まで野外条件下で育成し
28 た。この実験において、成長期にオゾンを曝露されることで、ブナ苗の落葉は早期化した。
29 また、翌春の発芽は、発芽の観察期間中にオゾン曝露を行っていないにも関わらず遅れた。
30 この現象は「キャリーオーバーエフェクト (持ち越し効果)」と呼ばれており、ドイツの
31 Kranzberg 森林の成木のヨーロッパブナでも同様の現象が観察されている (Nunn *et al.*,
32 2005)。ヨーロッパシラカンバの苗木では、フェノロジーのみならず、成長、形態及び生
33 理機能においても、オゾンによるキャリーオーバーエフェクトが報告されている (Oksanen
34 and Saleen, 1999)。

35

1 6. まとめ

2 光化学オキシダントの主成分であるオゾン (O₃) は、植物毒性が高いガス状大気汚染物
3 質である。オゾンは、大気から葉に存在する気孔を介して葉内に吸収される。葉内に吸収
4 されたオゾンは、主に葉の向軸面 (表面) に可視障害を発現させ、葉の細胞内で活性酸素
5 種を生成し、光合成や呼吸などの生理機能、窒素代謝、炭素分配、葉のターンオーバー、
6 フェノロジーなどに様々な影響を与え、乾物成長や収量を低下させる。

7

8 7. 参考文献

- 9 Black, V.J. (1984) The effect of air pollutants on apparent respiration. In *Gaseous Air*
10 *Pollutants and Plant Metabolism*, Koziol, M. J. & Whatley, F. R., Eds.
11 Butterworth-Heinemann: pp. 231-248.
- 12 Brendley, B.W. & Pell, E.J. (1998) Ozone-induced changes in biosynthesis of Rubisco
13 and associated compensation to stress in foliage of hybrid poplar. *Tree*
14 *Physiology*, 18, 81-90.
- 15 Chameides, W.L. (1989) The chemistry of ozone deposition to plant leaves: role of
16 ascorbic acid. *Environmental Science & Technology*, 23, 595-600.
- 17 Dann, M.S. & Pell, E.J. (1989) Decline of activity and quantity of ribulose biphosphate
18 carboxylase/oxygenase and net photosynthesis in ozone-treated potato foliage.
19 *Plant Physiology*, 91, 427-432.
- 20 D'Haese, D., Vandermeiren, K., Asard, H. & Horemans, N. (2005) Other factors than
21 apoplastic ascorbate contribute to the differential ozone tolerance of two clones
22 of *Trifolium repens* L. *Plant, Cell & Environment*, 28, 623-632.
- 23 Dumont, J., Cohen, D., Gérard, J., Jolivet, Y., Dizengremel, P. & Le Thiec, D. (2014)
24 Distinct responses to ozone of abaxial and adaxial stomata in three
25 Euramerican poplar genotypes. *Plant, Cell & Environment*, 37, 2064-2076.
- 26 Evans, J.R. (1989) Photosynthesis and nitrogen relationships in leaves of C₃ plants.
27 *Oecologia*, 78, 9-19.
- 28 Evans, J.R. & Seemann, J.R. (1989) The allocation of protein nitrogen in the
29 photosynthetic apparatus: costs, consequences, and control. In *Photosynthesis*,
30 Briggs, W. R., (ed.) Alan R. Liss, Inc.: New York, pp. 183-205.
- 31 Farquhar, G.D., von Caemmerer, S. & Berry, J.A. (1980) A biochemical model of
32 photosynthetic CO₂ assimilation in leaves of C₃ species. *Planta*, 149, 78-90.
- 33 Heath, R.L. (1980) Initial events in injury to plants by air pollution. *Annual Review of*
34 *Plant Physiology*, 31, 395-431.

- 1 Heath, R.L. (1987) The biochemistry of ozone attack on the plasma membrane of plant
2 cells. In *Phytochemical Effects of Environmental Compounds*, Saunders, J. A.,
3 Kosak-Channing, L. & Conn, E. E., (eds.) Springer: Boston, MA, Vol. 21, pp.
4 29-54.
- 5 Heath, R.L. & Taylor, G.E., Jr. (1997) Physiological processes and plant responses to
6 ozone exposure. In *Forest Decline and Ozone*, Sandermann, H., Wellburn, A.
7 R. & Heath, R. L., (eds.) Springer: Berlin, Heidelberg, Vol. 127, pp. 317-368.
- 8 Hoshika, Y., Watanabe, M., Inada, N. & Koike, T. (2012a) Ozone-induced stomatal
9 sluggishness develops progressively in Siebold's beech (*Fagus crenata*).
10 *Environmental Pollution*, 166, 152-156.
- 11 Hoshika, Y., Watanabe, M., Inada, N. & Koike, T. (2012b) Modeling of stomatal
12 conductance for estimating ozone uptake of *Fagus crenata* under
13 experimentally enhanced free-air ozone exposure. *Water, Air, & Soil Pollution*,
14 223, 3893-3901.
- 15 Hoshika, Y., Watanabe, M., Inada, N. & Koike, T. (2013a). Model-based analysis of
16 avoidance of ozone stress by stomatal closure in Siebold's beech (*Fagus*
17 *crenata*). *Annals of Botany*, 112, 1149-1158.
- 18 Hoshika, Y., Watanabe, M., Inada, N. & Koike, T. (2015) Effects of ozone-induced
19 stomatal closure on ozone uptake and its changes due to leaf age in sun and
20 shade leaves of Siebold's beech. *Journal of Agricultural Meteorology*, 71, 218-
21 226.
- 22 Hoshika, Y., Watanabe, M., Inada, N., Mao, Q. & Koike, T. (2013b). Photosynthetic
23 response of early and late leaves of white birch (*Betula platyphylla* var.
24 *japonica*) grown under free-air ozone exposure. *Environmental Pollution*, 182,
25 242-247.
- 26 Inada, H., Kondo, T., Akhtar, N., Hoshino, D., Yamaguchi, M. & Izuta, T. (2012)
27 Relationship between cultivar difference in the sensitivity of net
28 photosynthesis to ozone and reactive oxygen species scavenging system in
29 Japanese winter wheat (*Triticum aestivum*). *Physiologia Plantarum*, 146, 217-
30 227.
- 31 Inada, H., Yamaguchi, M., Satoh, R., Hoshino, D., Nagasawa, A., Negishi, Y., Nouchi,
32 I., Kobayashi, K. & Izuta, T. (2008) Effects of ozone on photosynthetic
33 components and radical scavenging system in leaves of rice (*Oryza sativa* L.).
34 *Journal of Agricultural Meteorology*, 64, 243-255.

- 1 Izuta, T., Funada, S., Ohashi, T., Miyake, H. & Totsuka, T. (1991) Effects of low
2 concentrations of ozone on the growth of radish plants under different light
3 intensities. *Environmental Sciences*, 1, 21-33.
- 4 Izuta, T., Ohtsu, G., Miyake, H. & Totsuka, T. (1994) Effects of ozone on dry weight
5 growth, net photosynthetic rate and leaf diffusive conductance in three
6 cultivars of radish plants. *Journal of Japan Society of Air Pollution*, 29, 1-8.
- 7 Izuta, T., Takahashi, K., Matsumura, H. & Totsuka, T. (1999) Cultivar difference of
8 *Brassica campestris* L. in the sensitivity to O₃ based on the dry weight growth.
9 *Journal of Japan Society for Atmospheric Environment*, 34, 137-146.
- 10 Izuta, T., Umemoto, M., Horie, K., Aoki, M. & Totsuka, T. (1996) Effects of ambient
11 levels of ozone on growth, gas exchange rates and chlorophyll contents of *Fagus*
12 *crenata* seedlings. *Journal of Japan Society for Atmospheric Environment*, 31,
13 95-105.
- 14 Kinose, Y., Fukamachi, Y., Okabe, S., Hiroshima, H., Watanabe, M. & Izuta, T. (2017a)
15 Photosynthetic responses to ozone of upper and lower canopy leaves of *Fagus*
16 *crenata* Blume seedlings grown under different soil nutrient conditions.
17 *Environmental Pollution*, 223, 213-222.
- 18 Kinose, Y., Fukamachi, Y., Okabe, S., Hiroshima, H., Watanabe, M. & Izuta, T. (2017b)
19 Nutrient supply to soil offsets the ozone-induced growth reduction in *Fagus*
20 *crenata* seedlings. *Trees*, 31, 259-272.
- 21 Kinose, Y., Fukamachi, Y., Okabe, S., Hiroshima, H., Watanabe, M. & Izuta, T. (2020b)
22 Toward an impact assessment of ozone on plant carbon fixation using a
23 process-based plant growth model: A case study of *Fagus crenata* grown under
24 different soil nutrient levels. *Science of The Total Environment*, 716, 137008.
- 25 Kinose, Y., Fukamachi, Y., Watanabe, M. & Izuta, T. (2020a) Ozone-induced change in
26 the relationship between stomatal conductance and net photosynthetic rate is
27 a factor determining cumulative stomatal ozone uptake by *Fagus crenata*
28 seedlings. *Trees*, 34, 445-454.
- 29 Kinose, Y., Yamaguchi, M., Matsumura, H. & Izuta, T. (2020c) Impact asesment of
30 ozone absorbed through stomata on photosynthetic carbon dioxide uptake by
31 Japanese deciduous forest trees: Implications for ozone mitigation policies.
32 *Forests*, 11, 137.
- 33 Kitao, M., Komatsu, M., Yazaki, K., Kitaoka, S. & Tobita, H. (2015) Growth
34 overcompensation against O₃ exposure in two Japanese oak species, *Quercus*

- 1 *mongolica* var. *crispula* and *Quercus serrata*, grown under elevated CO₂.
2 Environmental Pollution, 206, 133-141.
- 3 Kitaoka, S. & Koike, T. (2004) Invasion of broad-leaf tree species into a larch plantation,
4 seasonal light environment, photosynthesis and nitrogen allocation.
5 Physiologia Plantarum, 121, 604-611.
- 6 Lambers, H., Chapin, F.S., 3rd & Pons, T.L. (2008) *Plant Physiological Ecology*.
7 Springer: New York, NY.
- 8 Landolt, W., Günthardt-Goerg, M.S., Pfenninger, I., Einig, W., Hampp, R., Maurer, S.
9 & Matyssek, R. (1997) Effect of fertilization on ozone-induced changes in the
10 metabolism of birch (*Betula pendula*) leaves. New Phytologist, 137, 389-397.
- 11 Luwe, M.W.F., Takahama, U. & Heber, U. (1993) Role of ascorbate in detoxifying ozone
12 in the apoplast of spinach (*Spinacia oleracea* L.) leaves. Plant Physiology, 101,
13 969-976.
- 14 Matyssek, R. & Sandermann, H. (2003) Impact of ozone on trees: An ecophysiological
15 perspective. In *Progress in Botany*, Esser, K., Lüttge, U., Beyschlag, W. &
16 Hellwig, F., (eds.) Springer: Berlin, Heidelberg, Vol. 64, pp. 349-404.
- 17 Mills, G., Hayes, F., Wilkinson S. & Davies, W.J. (2009) Chronic exposure to increasing
18 background ozone impairs stomatal functioning in grassland species. Global
19 Change Biology, 15, 1522-1533.
- 20 Mills, G., Pleijel, H., Büker, P., Braun, S., Emberson, L.D., Harmens, H., Hayes, F.,
21 Simpson, D., Grünhage, L., Karlsson, P.E., Danielsson, H., Bermejo, V. &
22 Gonzalez Fernandez, I. (2010) Mapping Critical Levels for Vegetation.
23 Revision undertaken in Summer 2010 to include new flux-based critical levels
24 and response functions for ozone. In *Mapping Manual 2004*, International
25 Cooperative Programme on Effects of Air Pollution on Natural Vegetation and
26 Crops.
- 27 Nakaji, T. & Izuta, T. (2001) Effects of ozone and/or excess soil nitrogen on growth,
28 needle gas exchange rates and Rubisco contents of *Pinus densiflora* seedlings.
29 Water, Air, & Soil Pollution, 130, 971-976.
- 30 Nie, G.-Y., Tomasevic, M. & Baker, N.R. (1993) Effects of ozone on the photosynthetic
31 apparatus and leaf proteins during leaf development in wheat. Plant, Cell &
32 Environment, 16, 643-651.
- 33 Nouchi, I. (1993) Changes in antioxidant levels and activities of related enzymes in rice
34 leaves exposed to ozone. Soil Science and Plant Nutrition, 39, 309-320.

- 1 Nouchi, I., Ito, O., Harazono, Y. & Kobayashi, K. (1991) Effects of chronic ozone
2 exposure on growth, root respiration and nutrient uptake of rice plants.
3 *Environmental Pollution*, 74, 149-164.
- 4 Nouchi, I., Ito, O., Harazono, Y. & Kouchi, H. (1995) Acceleration of ¹³C-labelled
5 photosynthate partitioning from leaves to panicles in rice plants exposed to
6 chronic ozone at the reproductive stage. *Environmental Pollution*, 88, 253-260.
- 7 Nunn, A.J., Reiter, I.M., Häberle K.-H., Langebartels, C., Bahnweg G., Pretzsch H.,
8 Sandermann, H. & Matyssek, R. (2005) Response patterns in adult forest trees
9 to chronic ozone stress: identification of variations and consistencies.
10 *Environmental Pollution*, 136, 365-369.
- 11 Okano, K., Ito, O., Takeba, G., Shimizu, A., & Totsuka, T. (1984) Alteration of ¹³C-
12 assimilate partitioning in plants of *Phaseolus vulgaris* exposed to ozone. *New*
13 *Phytologist*, 97, 155-163.
- 14 Oksanen, E. & Saleem, A. (1999) Ozone exposure results in various carry-over effects
15 and prolonged reduction in biomass in Birch (*Betula pendula* Roth). *Plant, Cell*
16 *& Environment*, 22, 1401-1411.
- 17 Omasa, K. (1990) Study on changes in stomata and their surrounding cell using a
18 nondestructive light microscope system: Responses to air pollutants. *Journal*
19 *of Agricultural Meteorology*, 45, 251-257.
- 20 Paoletti, E. & Grulke, N.E. (2005) Does living in elevated CO₂ ameliorate tree response
21 to ozone? A review on stomatal responses. *Environmental Pollution*, 137, 483-
22 493.
- 23 Pell, E.J., Sinn, J.P., Brendley, B.W., Samuelson, L., Vinten-Johansen, C., Tien, M. &
24 Skillman, J. (1999) Differential response of four tree species to ozone-induced
25 acceleration of foliar senescence. *Plant, Cell & Environment*, 22, 779-790.
- 26 Pell, E.J., Temple, P.J., Friend, A.L., Mooney, H.A. & Winner, W.E. (1994)
27 Compensation as a plant response to ozone and associated stresses: An
28 analysis of ROPIS experiments. *Journal of Environmental Quality*, 23, 429-
29 436.
- 30 Reich, P.B. (1987) Quantifying plant response to ozone: a unifying theory. *Tree*
31 *Physiology*, 3, 63-91.
- 32 Sakaki, T., Kondo, N. & Sugahara, K. (1983) Breakdown of photosynthetic pigments
33 and lipids in spinach leaves with ozone fumigation: Role of active oxygens.
34 *Physiologia Plantarum*, 59, 28-34.

- 1 Sawada, H. & Kohno, Y. (2009) Differential ozone sensitivity of rice cultivars as
2 indicated by visible injury and grain yield. *Plant Biology*, 11, 70-75.
- 3 Scandalios, J.G. (1994) Molecular biology of superoxide dismutase. In *Plant Responses*
4 *to the Gaseous Environment*, Alscher, R. G. & Wellburn, A. R., (eds.) Springer:
5 Dordrecht, pp. 147-164.
- 6 Sharkey, T.D. (1985) Photosynthesis in intact leaves of C₃ plants: Physics, physiology
7 and rate limitations. *The Botanical Review*, 51, 53-105.
- 8 Sugai, T., Watanabe, T., Kita, K. & Koike, T. (2019) Nitrogen loading increases the
9 ozone sensitivity of larch seedlings with higher sensitivity to nitrogen loading.
10 *Science of The Total Environment*, 663, 587-595.
- 11 Tanaka, K., Saji, H. & Kondo, N. (1988) Immunological properties of spinach
12 glutathione reductase and inductive biosynthesis of the enzyme with ozone.
13 *Plant and Cell Physiology*, 29, 637-642.
- 14 Tanaka, K., Suda, Y., Kondo, N. & Sugahara, K. (1985) O₃ tolerance and the ascorbate-
15 dependent H₂O₂ decomposing system in chloroplasts. *Plant and Cell*
16 *Physiology*, 26, 1425-1431.
- 17 Tanaka, Y., Sano, T., Tamaoki, M., Nakajima, N., Kondo, N. & Hasezawa, S. (2005)
18 Ethylene inhibits abscisic acid-induced stomatal closure in *Arabidopsis*. *Plant*
19 *Physiology*, 138, 2337-2343.
- 20 Thompson, J.E., Legge, R.L. & Barber, R.F. (1987) The role of free radicals in
21 senescence and wounding. *New Phytologist*, 105, 317-344.
- 22 Turcsányi, E., Lyons, T., Plöchl, M. & Barnes, J. (2000) Does ascorbate in the mesophyll
23 cell walls form the first line of defence against ozone? Testing the concept
24 using broad bean (*Vicia faba* L.). *Journal of Experimental Botany*, 51, 901-910.
- 25 Uddling, J., Karlsson, P.E., Glorvigen, A. & Selldén, G. (2005) Ozone impairs autumnal
26 resorption of nitrogen from birch (*Betula pendula*) leaves, causing an increase
27 in whole-tree nitrogen loss through litter fall. *Tree Physiology*, 26, 113-120.
- 28 Watanabe, M., Hiroshima, H., Kinose, Y., Okabe, S. & Izuta, T. (2020) Nitrogen use
29 efficiency for growth of *Fagus crenata* seedlings under elevated ozone and
30 different soil nutrient conditions. *Forests*, 11, 371.
- 31 Watanabe, M., Hoshika, Y., Inada, N. & Koike, T. (2015) Difference in photosynthetic
32 responses to free air ozone fumigation between upper and lower canopy leaves
33 of Japanese oak (*Quercus mongolica* var. *crispula*) saplings. *Journal of*
34 *Agricultural Meteorology*, 71, 227-231.

- 1 Watanabe, M., Hoshika, Y., Inada, N., Wang, X., Mao, Q. & Koike, T. (2013)
2 Photosynthetic traits of Siebold's beech and oak saplings grown under free air
3 ozone exposure in northern Japan. *Environmental Pollution*, 174, 50-56.
- 4 Watanabe, M., Hoshika, Y. & Koike, T. (2014) Photosynthetic responses of Monarch
5 birch seedlings to differing timing of free air ozone fumigation. *Journal of*
6 *Plant Research*, 127, 339-345.
- 7 Watanabe, M., Kamimaki, Y., Mori, M., Okabe, S., Arakawa, I., Kinose, Y., Nakaba, S.
8 & Izuta, T. (2018) Mesophyll conductance to CO₂ in leaves of Siebold's beech
9 (*Fagus crenata*) seedlings under elevated ozone. *Journal of Plant Research*,
10 131, 907-914.
- 11 Watanabe, M., Okabe, S., Kinose, Y., Hiroshima, H. & Izuta, T. (2019) Effects of ozone
12 on soil respiration rate of Siebold's beech seedlings grown under different soil
13 nutrient conditions. *Journal of Agricultural Meteorology*, 75, 39-46.
- 14 Watanabe, M., Umemoto-Yamaguchi, M., Koike, T. & Izuta, T. (2010) Growth and
15 photosynthetic response of *Fagus crenata* seedlings to ozone and/or elevated
16 carbon dioxide. *Landscape and Ecological Engineering*, 6, 181-190.
- 17 Watanabe, M., Yamaguchi, M., Iwasaki, M., Matsuo, N., Naba, J., Tabe, C., Matsumura,
18 H., Kohno, Y. & Izuta, T. (2006) Effects of ozone and/or nitrogen load on the
19 growth of *Larix kaempferi*, *Pinus densiflora* and *Cryptomeria japonica*
20 seedlings. *Journal of Japan Society for Atmospheric Environment*, 41, 320-334.
- 21 Watanabe, M., Yamaguchi, M., Matsumura, H., Kohno, Y. & Izuta, T. (2008) Effects of
22 ozone on growth and photosynthesis of *Castanopsis sieboldii* seedlings grown
23 under different nitrogen loads. *Journal of Agricultural Meteorology*, 64, 143-
24 155.
- 25 Watanabe, M., Yamaguchi, M., Tabe, C., Iwasaki, M., Yamashita, R., Funada, R.,
26 Fukami, M., Matsumura, H., Kohno, Y. & Izuta, T. (2007) Influences of
27 nitrogen load on the growth and photosynthetic responses of *Quercus serrata*
28 seedlings to O₃. *Trees*, 21, 421-432.
- 29 Wilkinson, S. & Davies, W.J. (2010) Drought, ozone, ABA and ethylene, new insights
30 from cell to plant community. *Plant, Cell & Environment*, 33, 510-525.
- 31 Wittig, V.E., Ainsworth, E.A. & Long, S.P. (2007) To what extent do current and
32 projected increases in surface ozone affect photosynthesis and stomatal
33 conductance of trees? A meta-analytic review of the last 3 decades of
34 experiments. *Plant, Cell & Environment*, 30, 1150-1162.

- 1 Wittig, V.E., Ainsworth, E.A., Naidu, S.L., Karnosky, D.F. & Long, S.P. (2009)
2 Quantifying the impact of current and future tropospheric ozone on tree
3 biomass, growth, physiology and biochemistry: a quantitative meta-analysis.
4 *Global Change Biology*, 15, 396-424.
- 5 Yamaguchi, M., Hoshino, D., Kondo, T., Satoh, R., Inada, H. & Izuta, T. (2015)
6 Evaluation of O₃ effect on net photosynthetic rate in flag leaves of rice (*Oryza*
7 *sativa* L.) by stomatal O₃ flux and radical scavenging enzyme activities.
8 *Journal of Agricultural Meteorology*, 71, 211-217.
- 9 Yamaguchi, M., Inada, H., Satoh, R., Hoshino, D., Nagasawa, A., Negishi, Y., Sasaki,
10 H., Nouchi, I., Kobayashi, K. & Izuta, T. (2008) Effects of ozone on the growth,
11 yield and leaf gas exchange rates of two Japanese cultivars of rice (*Oryza*
12 *sativa* L.). *Journal of Agricultural Meteorology*, 64, 131-141.
- 13 Yamaguchi, M., Kinose, Y., Matsumura, H. & Izuta, T. (2019) Evaluation of O₃ effects
14 on cumulative photosynthetic CO₂ uptake in seedlings of four Japanese
15 deciduous broad-leaved forest tree species based on stomatal O₃ uptake.
16 *Forests*, 10, 556.
- 17 Yamaguchi, M., Watanabe, M., Iwasaki, M., Tabe, C., Matsumura, H., Kohno, Y. &
18 Izuta, T. (2007a) Growth and photosynthetic responses of *Fagus crenata*
19 seedlings to O₃ under different nitrogen loads. *Trees*, 21, 707-718.
- 20 Yamaguchi, M., Watanabe, M., Matsumura, H., Kohno, Y. & Izuta, T. (2010) Effects of
21 ozone on nitrogen metabolism in the leaves of *Fagus crenata* seedlings under
22 different soil nitrogen loads. *Trees*, 24, 175-184.
- 23 Yamaguchi, M., Watanabe, M., Matsuo N., Naba, J., Funada, R., Fukami, M.,
24 Matsumura, H., Kohno, Y. & Izuta, T. (2007b) Effects of nitrogen supply on
25 the sensitivity to O₃ of growth and photosynthesis of Japanese beech (*Fagus*
26 *crenata*) seedlings. *Water, Air, & Soil Pollution: Focus*, 7, 131-136.
- 27 Yonekura, T., Dokiya, Y., Fukami, M. & Izuta, T. (2001a) Effects of ozone and/or soil
28 water stress on growth and photosynthesis of *Fagus crenata* seedlings. *Water,*
29 *Air, & Soil Pollution*, 130, 965-970.
- 30 Yonekura, T., Honda, Y., Oksanen, E., Yoshidome, M., Watanabe, M., Funada, R., Koike,
31 T. & Izuta, T. (2001b) The influences of ozone and soil water stress, singly and
32 in combination, on leaf gas exchange rates, leaf ultrastructural characteristics
33 and annual ring width of *Fagus crenata* seedlings. *Journal of Japan Society*
34 *for Atmospheric Environment*, 36, 333-351.

- 1 Yonekura, T., Yoshidome, M., Watanabe, M., Honda, Y., Ogiwara, I. & Izuta, T. (2004)
2 Carry-over effects of ozone and water stress on leaf phenological
3 characteristics and bud frost hardiness of *Fagus crenata* seedlings. *Trees*, 18,
4 581-588.
- 5 浅田浩二. (1999) 活性酸素の生物学. 化学と生物 37, 251-259.
- 6 伊豆田 猛, 船田 周, 大橋 毅, 三宅 博, 戸塚 績. (1988) 異なる温度条件下におけるハツ
7 カダイコンの生長に対するオゾンの影響. 大気汚染学会誌, 23, 209-217.
- 8 印南ゆかり, 三輪 誠. (2014) 葉に発現する可視被害の程度に基づいたハウレンソウのオ
9 ゾン感受性評価. 大気環境学会誌, 49, 1-7.
- 10 河内 宏. (1980) 植物葉におけるオゾン吸収速度と気孔拡散抵抗との関係. 大気汚染学会
11 誌 15, 109-117.
- 12 河野吉久, 松村秀幸. (1999) スギ, ヒノキ, サワラの生育に及ぼすオゾンと人工酸性雨の
13 複合影響. 大気環境学会誌, 34, 74-85.
- 14 寺門和也, 久野春子. (1981) FAC 利用による光化学オキシダントの植物被害解析. 東京都
15 農業試験場研究所報告, 14, 13-25.
- 16 中村 拓 (1979) 光化学オキシダントによるイネの被害に関する研究. 農業技術研究所報告,
17 24 D30, 1-68.
- 18 野内 勇. (2001) 大気環境変化と植物の反応. 養賢堂, p. 391.
- 19 野内 勇, 青木一幸, 小林和彦. (2019) 葉アポプラスト (細胞壁) に存在する抗酸化性アス
20 コルビン酸はオゾンをどこまで解毒できるのか? — (I) 化学反応を伴ったガス拡
21 散移動に基づいたシミュレーションモデル—. 大気環境学会誌, 54, 113-127.
- 22 野内 勇, 高崎 強, 戸塚 績. (1988) 光化学オキシダントに対する農作物および園芸作物の
23 相対的感受性比較. 大気汚染学会誌, 23, 355-370.
- 24 古川昭雄 (1984) 種々の大気汚染物質による高等植物の光合成阻害. 国立公害研究所研究
25 報告, 64, 131-139.
- 26 松丸恒夫, 高崎 強. (1989) 光化学オキシダントに対する指標植物としての農作物感受性
27 品種の選定. 大気汚染学会誌, 24, 287-289.
- 28 松村秀幸, 青木 博, 河野吉久, 伊豆田 猛, 戸塚 績. (1996) スギ, ヒノキ, ケヤキ苗の乾
29 物成長とガス交換速度に対するオゾンの影響. 大気環境学会誌, 31, 247-261.
- 30 松村秀幸, 小林卓也, 河野吉久. (1998) スギ, ウラジロモミ, シラカンバ, ケヤキ苗の乾物
31 成長とガス交換速度に対するオゾンと人工酸性雨の単独および複合影響. 大気環
32 境学会誌, 33, 16-35.
- 33 三輪 誠, 伊豆田 猛, 戸塚 績. (1993) スギ苗の生長に対する人工酸性雨とオゾンの単独お
34 よび複合影響. 大気汚染学会誌, 28, 279-287.